

# 竹原市と平清盛のつながり

## 1 「忠海町」の地名の由来は平清盛の父の名

平忠盛（清盛の父）が1135年（保延元年）日宋貿易の航路である瀬戸内海の、忠海沖（当時「浦」）で海賊を捕らえた功績として、忠盛の二文字を分け、「浦」を忠海と、対岸の島である大三島を盛村と名づけたと伝えられている。



## 2 「清水の耳なし地蔵」は平清盛の命によるもの

1178年春、平清盛は、高倉天皇に入内させた徳子（清盛の子）の安産祈願のため、巖島神社に向かった。しかし、船旅の途中、激しい風に遭い、徳子の出産に胸騒ぎがした清盛は、安産を祈るため、石工に地蔵を彫るように命じた。

石工が耳を完成させる前に、徳子が元気な男の子（安徳天皇）を出産したため、耳がついていない地蔵をそのままの姿で祀った。

その地蔵が忠海の辻地蔵似心堂にある「清水の耳なし地蔵」といわれている。  
(竹原市忠海東町四丁目7番付近)



## 3 「十一面観音像」は平重盛の守本尊

広島県重要文化財に指定されている西方寺普明閣の「木造十一面観世音菩薩立像」は、平重盛（清盛の嫡男）の守本尊といわれている。

像高82cm、総高約95cm、全体が一具として室町時代に作られたと考えられる。

もともとは鞆の小松寺にあったものだが、足利義昭が毛利氏を頼りに鞆へ移った際、戦乱を避けるために竹原に移されたと伝えられている。

(竹原市本町三丁目10番44号・西方寺境内)

